

国内トップクラス 「きたすばる」が フルオープン

絶好の天体観測条件を誇るなよろ市立天文台「きたすばる」には、昨年4月のオープン以来、全国各地から1万4千人を超える天体ファンが訪れています。12月、北海道大学により観測ドーム内に1.6mの鏡を持つ大型望遠鏡が設置されました。2011年4月からは一般の方への公開が始まり、なよろ市立天文台は全ての設備が整いフルオープンとなります。



☆
☆
☆
公開天文台としては日本で
2番目の口径を持つ望遠鏡

望遠鏡の鏡は、人間に例えると瞳にあたる重要な部分で、鏡が大きいほど暗い天体を観測することができます。

今回、北海道大学により設置された大型望遠鏡は、恒星や惑星の光を集める鏡の直径（「口径」といいます）が1.6m。この大きさは公開天文台としては、兵庫県西はりま天文台公園の「なゆた望遠鏡」に次ぐ国内2番目の大きさとなります。ちなみに東日本では1番の大きさです。

望遠鏡の本体は11月上旬から設置が始まり、11月下旬にはロシアで磨かれている鏡を待つ状態になりました。そして、日本に到着した鏡は、12月16日に天文台に搬入され、すでに形が出来ていた望遠鏡本体に設置。その後、鏡の調整が行われ、12月22日早朝には初めて望遠鏡で天体をとらえるファースト・ライトに成功。観測への準備が着々と進んでおり、現在、4月の一般公開に向け、最終調整作業が行われています。

☆
☆
☆
北海道大学の宇宙科学研究

これまで、北海道大学理学院の天文観測施設は北大苫小牧研究林に11m電波望遠鏡があるのみでしたが、平成18年に宇宙理学専攻を発足させることで、宇宙観測にさらなる力をそそぐこととなりました。光学望遠鏡の設置場所の候補として、交通の便、観測条件、観測技術者などの面から、名寄市が有力視されてきました。平成17年12月名寄市と北海道大学が地域間の交流促進および施設・機器等の相互利用を図るために相互協力協定を締結したことから、今回のなよろ市立天文台内への望遠鏡設置に至りました。



鏡取り付け前の
大型望遠鏡本体



口径1.6mの主鏡



主鏡の取り付け作業

☆☆☆
6年後の「あかつき」
金星到着を目指して

今回の望遠鏡の設置を行った北海道大学は、昨年5月にJAXA（宇宙航空研究開発機構）が打ち上げた金星探査機「あかつき」に搭載している4台の観測用カメラの開発にも関わってきました。「あかつき」はいわば金星版の気象衛星「ひまわり」。そのカメラを使って観測を行うことで、自転速度に比べ非常に強い風が吹いている謎の解明や、究極的に温暖化が進んだ様子を調べることができそうです。

本来であれば北海道大学は「あかつき」が金星の周りを回る軌道に入る12月から、なよろ市立天文台に設置された大型望遠鏡で「あかつき」と同時観測を行い、より多くの観測結果を得る予定でしたが、「あかつき」の金星軌道投入が失敗したことで、同時観測も一時中断することとなりました。しかし、JAXAは6年後に再度「あかつき」を金星軌道に投入しようと計画しています。

北海道大学では、投入時の同時観測を見据えつつ、それまでに単独での金星観測や他の惑星について

の観測も行い、成果を発揮したいと考えています。

☆☆☆
4月から大型望遠鏡
が一般公開

大型望遠鏡は北海道大学の学術研究に使用されますが、それ以外のときは4月から一般の方にも観ていただけるよう準備を進めています。これまでより遥かな宇宙をご覧いただけます。

☆☆☆
ひまわりを含めた観光
の拡大も

天文台のフルオープンに加え、同じサンピラーパーク内のひまわり畑を背景とした映画『星を守る犬』の公開日が6月11日に決定しました。

関係機関と調整し、天文台・ひまわり畑「星とひまわり」をコンセプトに名寄の魅力を発信するための複合的な展開を予定しています。

※公開予定日などは3月以降にホームページ「一般公開スケジュールカレンダー」、広報なよろに掲載します。



(c) JAXA

JAXAが打ち上げた金星探査機「あかつき」のイメージ図